

総評

チャレンジまなびや

管理者、児童発達管理責任者、指導員は元学校教諭、保育士でそれぞれの発達支援についての経験や知識・技術を生かし特別な支援を必要とする児童生徒が生きる力となる基本的な生活活動や社会性、コミュニケーション等の力をつけ地域の中で活動できることをめざしている。子どもの特性や保護者のニーズをより具体的にとらえ小学校・中学校高等学校と手厚く連携し放課後の短い時間に一人一人にきめ細かな支援と将来にわたる力を育てるため評価を行う。

環境体制整備の点では「専門性が感じられない」と回答された方が1名おられた。療育の視点にたった関わりについて説明不足がなかったか検証を進める。ミーティングを毎日行っている。その中でも支援のあり方について交流する時間をさらに増やした。ケース研究を始めているが支援に必要な内容を明確にしていきたい。個別の部屋や砂場のある中庭や集団活動のできるプレイルーム体を使った活動の支援ができるよう移動に安全な公園が近くにあるが有効的な職員配置と部屋等の使い方を工夫していきたい。

適切な支援の提供については概ね発達年齢や学年での学習支援の効果を高めるため生活能力を向上させ、学習習慣を定着させ、社会とのコミュニケーションを十分にとれるよう総合的なプログラムで個々の子どもの実態に合わせ、教材や教具を使い、集団療育、個人療育等、専門的知識と技術を持った指導員が適切な支援指導を心がけている。月に3回地域から外部講師として、バルーンアート、パン作り教室、スタッフでパソコン教室、実験教室、おやつ作り教室、等を行い体験とコミュニケーションを大切に行っている。一方でアセスメントについては管理者、児童発達管理責任者、指導員・保育士がまだまだ連携と情報共有できていない点があり共有の時間等を増やす必要がある。

関係機関や保護者との連携については子どもの生活に通じている児童指導員が多数いるので報告相談連絡が比較的スムーズであり適切な保護者対応ができているが更に情報の共有を図り家庭連携を強化したい。

保護者への説明責任等については他の事業所では見られない強みとして本事業所で支援、指導に当たる教員のOB、保育士、地元大学の臨床系の大学院生や現役の福祉、教育の学部を専攻する学生がこれまでの経験や知識を生かし、個々の子どもの実態や状況を適切にとらえ、見立てを行い学校や関係機関との連携が速やかに行え保護者への相談に対して適切な対応を行うことに努められた。

非常時等の対応については、対応マニュアルを作成しているがスタッフや保護者に周知が徹底しているとは言い難いのでスタッフの危機意識を高め訓練を増やしていく。

より質の高い支援を行うにはスタッフの充実と研修である。スタッフが力をつけ教材を発達年齢に合わせ作成し、子ども達との有効な時間を作るように努めたい。また、安心して子ども達が指導員との人間関係を作り事業所での時間を過ごせるように指導員の配置を充実に努めたい。このことは、保護者の方より「事業所での時間を子どもが楽しみにしている」「今までできないことができるようになってきている」等の評価の声をいただいている。今後もいただいた意見や要望を大切に改善を進めたい。

